



アジアと地球の持続可能性を考えるサマーワークショップ

Intensive Program on Sustainability (IPoS)

こんな問題に取り組んでいます

サステナビリティは気候変動・資源の枯渇・エネルギー危機など、21世紀の複雑に絡み合う問題を解決する上で重要なキーワードです。IPoS（アジアと地球の持続可能性を考えるサマーワークショップ）は、アジアと地球のサステナビリティを考えるための約2週間の教育コースであり、サステナビリティ学教育プログラムが中心となって、2004年以降毎年開催しています。出身分野や国籍の異なる学生が世界中から集まり、プログラム期間中は寝食を共にし、講義・討論・フィールド演習・グループ発表などを通じて、アジアのサステナビリティに関して議論を深め、諸問題を解決する能力を開発していきます。

こんなことがわかってきました

本年度は、「Livelihood Strategies for Adaptation to Climate Change」をテーマとして掲げ、タイのバンコク近郊を対象として、気候変動により起こりうるリスクである自然災害、食糧問題、資源枯渇等の問題に現地住民がどのように対処すべきか、その適応戦略について議論しました。具体的には、現地の様々なステークホルダーの立場にたち、問題を整理し、ステークホルダー間の関係を明確化し、アジア途上国における最適解と将来のビジョンについて、学生達で自身で考えをまとめ、グループ発表という形で共有しました。学際的・文化的背景の異なる学生達が、他者の状況を理解した上で合意形成を図ることには様々な困難もありましたが、参加者の中で活発な議論が展開されました。また学生間に堅い友情が形成されたことも重要な成果といえましょう。

関連展示: サステナビリティ学教育プログラム(環境棟3階ラウンジ)
連絡先: 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 環境学研究系
サステナビリティ学教育プログラム
味埜 俊 <mino@k.u-tokyo.ac.jp>

<学生間の議論>



<フィールドでの演習>

